

図書館だより

目 次

愛大図書館の現状と課題—その1—	1～4	図書館委員会	10
図書館へ行こう	5	図書館委員会委員	10
農学部分館が新しくなりました	6～7	留学生用新聞雑誌を備えました	10
平成5年度附属図書館統計	8	「松山高等学校」同窓会会員の著書の	
係の名称が変わりました	9	収集	11
自己紹介	9～10	図書館日誌他	12

愛大図書館の現状と課題 ～その1～

阿 部 雅 機

はじめに

図書館の窓から眺めると、一斉に芽吹きはじめた樺の若葉や、このたびの補正予算で整備された公園のベンチで語り合う学生達の姿が目に入る。いかにも新しい季節の到来を感じさせる光景だ。

最近「週刊朝日」が編集した「大学ランキング'95」の主要172大学図書館の総合ランキングによれば、愛大図書館は第86位にランクされている。学生への貸出冊数、年間の図書受入数、図書館関係諸経費の要素を学生1人当たりの数値に平準化して、標準偏差値を出し、順位づけしたようである。また、貸出冊数については、国公立大学の中で第23位となっている。これが妥当であるか、否かここでは結論を出さず紹介だけに止めておこう。

さて、近年大学改革の動きが急であり、当館も自己点検・評価項目を設定し、平成5年2月に最初の報告書を作成している。

その後、学術審議会学術情報資料分科会学

術情報部会から、平成5年12月に報告書「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」が出され、大学図書館の在るべき姿について具体的な提言がなされている。

ここでは、それらの状況をも踏まえて、本学図書館の現状と当館が近代的な大学図書館としての機能を十分に果して行くために、今後いかに在るべきかについていくつかの事例を挙げて記し、広く学内のご理解を得たいと考えている。

1 図書館建築と設備

図書館にとって建物は単なる資料の容れものではない。よりよいサービスを提供する場であり、最新の情報発信基地であり、文化や芸術に親しみ、教養を得る場所であり、憩いのスペースでもある。また、それらのいくつもの役割をスムーズに発揮するためには、そこで働く職員にとって、管理しやすいということも大切な要素である。

学内には、文京地区の本館のほか、重信地区の医学部分館、樽味地区の農学部分館の3つの図書館があり、各種のサービス提供によって本学の研究活動や教育活動を支援し、一般市民への公開等は幅広い活動を展開している。

以下に各館の状況を記したい。

本館

本館のコアとなる部分は昭和39年に建築されている。その後、閲覧スペース、書庫スペースともに何度かの増築を経て、面積は現在8,719㎡となっている。

この建物は、一時、法文学部及び教育学部の研究室と併設の時期があり、図書館として建てられていない箇所、つまり床の荷重計算が十分でない部分には、大量の資料を配置できない状態である。このほかにも、利用スペースと管理スペースが階層毎に混在して使いがたが悪い、老朽化が著しい、小部屋や階段が多いため図書館としての有効スペースが少ないなど、いくつもの難点がある。

現状は、建物西側部分の1階は学術情報センターのノード室等として、2階、3階部分は留学生指導センターとして、中央部分3階の一部は総合情報処理センターの教育用端末室として使用されており、東側部分の3階については、今後放送大学の地区学習センターとして貸与する計画がある。

いずれにしても本館の収容能力は限界に近づいており、現在地にはもう増築スペースが確保できないことから、新館を建てるまでの間は、わずかな空きスペースでも床の荷重が十分であれば、臨時的に書架を増設して対処したいと考えている。

さて、本館新築に関しては、現在学内で幾つかの共通認識がある。

まず第一には、本館新築は将来構想委員会の下部機関である城北地区長期計画策定専門部会での検討の下に、城北キャンパス再開の一環として位置づけられていることである。

教養部の在り方を初めとする本学の改革と

の関係や、キャンパス全体の建物配置計画の原則である、スクラップ・アンド・ビルドとの関係から、実現までにはこれから幾つもの課題をクリアしてゆく必要があるだろう。

第二には、城北地区の建て詰まり解消のためには、機能的に関係の深い部局と併合し、極力高層化を目指すことである。

同専門部会では、グラウンド北半分に附属図書館本館と総合情報処理センターとの併合施設を建築する案を提唱し、合意を得ている。

図書館と情報処理センター等との関係については、冒頭に掲げた学術審議会学術情報部会の報告においても、大学における情報資源の効果的な蓄積・利用の拡充のために積極的に協力するように提言されている。

これらの状況の中で新館建築について検討するために、図書館職員によるワーキング・グループを設置した。この会合では平成4年9月に第1回を開催して以来、建築上の理念を整理し、幾つかの平面計画を検討してきた。

その間、附属図書館本館と総合情報処理センターとの併設施設を、平成6年度概算要求事項として図書館から正式に提出するために、数次にわたって同センターとの会合を持ち、摺り合わせを行った。図書館における検討案の概要は以下のとおりである。

- 面積：約15,000㎡(2部局合計で、新基準により計算)
- 階層：5～6階建(上部をセンターが、下部を図書館が使用)
- 基本理念
 - 1) 近代的な大学図書館の機能を備えるため、徹底したインテリジェントビルを目指す。
 - 2) 館内は、極力フリーアクセスとする。
 - 3) 学術雑誌等を極力図書館に集中的に配置し、共同利用を図る。
 - 4) 生涯教育の一環として学外者への公開に配慮し、放送大学の地区学習センターとしてのスペースも用意する。
 - 5) マルチメディア室、グループ学習室、研究個室、多目的ホール、大型本コーナー、展示コーナー等を設置し、利用者の多様なニーズに対応する。

6) 収容能力を高めるため、電動式の集密書架を導入する。

7) センターとの管理区分は明確にするが、会議室、ホール、端末室等は極力共通的に使用する。

これまで述べたように、本館新築実現までの道程にはなお厳しいものがあるが、今後さらに学内のご理解を深められるよう、努力を続けたい。

医学部分館

医学部分館は、医学部及び附属病院等の施設があり、松山市内から約13kmほど離れている温泉郡重信町に置かれている。

建物は昭和53年に竣工し、鉄筋コンクリート造りの2階建てで、書庫部分は3層となっている。建築当初の収容能力は7万冊余りであるが、平成5年度末現在の蔵書はほぼ8万冊と狭隘化が著しく、職員が資料配置に四苦八苦しているのが現状である。

このため、平成3年度分から医学部分館増築工事を概算要求事項としてきたが、学内順位が低く、平面計画等を提出するまでには至っていなかった。

これらの状況の中で、平成6年度から医学部看護学科の新設という新たな事態が生じ、今後狭隘化がさらに加速することが予測され、早急に資料収容スペース、閲覧スペースを確保する必要性が生じたことから、本館及び医学部分館職員からなる医学部分館増築計画検討ワーキング・グループを設置し、平成5年12月から検討を開始した。これまでの確認事項は以下のとおりである。

- 1) 新基準による資格面積は約450㎡となる。
- 2) 増築の方向性は、建築当初に増築用スペースとして確保している、現施設の西側とする。
- 3) 増築部分は2階建てとする。ただし、書庫部分については3層とし、収容能力を高めるために積層もしくは電動式集密書架の導入を図る。
- 4) 現在1階、2階に分離している事務室を1階に統合し、迅速なサービスの提供と少ない人員での効率的な管理運営を図る。

5) 1階の暗室、印刷室の壁面を除去し、新着雑誌コーナーとする。また、併せてこの階にインフォメーション・カウンター、参考図書コーナー、マルチメディア・コーナー、コピー・コーナーを設ける。

6) 2階は図書コーナーとし、新たにグループ学習室を設ける。

以上のように、この増築計画は単に収容能力の向上と閲覧スペースを確保するだけでなく、第一線の専門図書館としての機能を新たに備えるための改善策として位置づけている。

このために、平成7年度分から、医学部分館増築工事を館内順位1位として概算要求することが、附属図書館委員会です承されている。緊急度の高い本件の実現に向けて、ぜひ学内のご理解を得たいと願っている。

ただし、この実現まで現施設をそのまま放置しておくわけにはゆかない。平成5年度は屋上の雨漏り防止工事及び玄関の庇取り付け工事を行い、BDS(図書無断持ち出し防止装置)を設置した。

また、今年度は24時間開館実現のための時間外入館専用扉を取り付ける予定であるし、玄関扉自動化の要求も引き続き行い、さらに暗室及び印刷室内の寄贈資料等を整理して、館内に看護学科用の資料コーナーを確保すること、学内LAN上でCDサーバを運用するシステムの概算要求等、種々の改善策を検討している。

農学部分館

農学部分館は、農学部、附属農業高校、大学院連合農学研究科等が置かれている、松山市樽味3丁目にあり、建物の中核となる部分(791㎡)は、昭和43年11月に竣工した。

同分館の新築(増築)案については、その後農学部内で検討し始められていたが、昭和60年11月の農学視学委員による実地視察の際に、「その機能を十分発揮できるよう検討することが望ましい」との指摘を受けたことを契機に、積極的に検討を開始し、併せて分館運営委員会の設置、参考図書をはじめとする学生用図書の整備、図書館資料の配置計画の見

直し等、順次改善策を講じてきた。

分館新築計画については、前農学部分館長であった伏見知道元教授が永年構想を練り、昭和63年度分から概算要求事項としてきたが、平面計画を出すまでには至らなかった。

このような中で平成5年度概算要求では、敷地との関係から、新築でなく増築で臨むという農学部の意向が明らかになり、施設部の後押しを背景にして、本館及び農学部分館職員による増築計画検討ワーキング・グループを設置して、同分館の在り方や平面計画の細部等について検討を重ねた。

難点は、同分館の1階にある農学部の演習室及び総合情報処理センター農学部分室を、それぞれ円滑に機能させるために増築計画の中にどのように取り込むかということであり、この間、図書館、施設部、農学部の3者で何回か意見の調整が行われ、同ワーキング・グループ内における平面計画の修正は十数回に及んだ。増築計画案の概要は、以下のとおりである。

- 1) 分館の玄関は1階とし、増築部分の1階及び2階は、すべて分館が使用する。
- 2) 演習室及び総合情報処理センター農学部分室は、増築部分の3階に移転する。
- 3) 増築部分だけでなく、既存部分についても施設、設備上の改善を行い、全館的に近代的な専門図書館としての機能を保持させる。
- 4) 1階を主に新着雑誌閲覧室及び参考図書室、2階を主に開架図書室とし、マルチメディア・コーナー、グループ学習室、特別資料室、留学生コーナー等を新たに設ける。
- 5) 蔵書量の増加に対応するため、近い将来集密書架を設置できる場所を、1階に確保しておく。
- 6) 狭隘な敷地内での増築であるため、室内の照度、風通し、西日対策を十分に作る。
- 7) 少人数での管理を可能とするため、電源の集中化、事務室とカウンターの見通し、2階の各室との間のインターフォンの設置等を考慮する。

これらの計画は、平成5年度補正予算の配

分によって急遽実施に移されることになり、約6ヶ月の工期で平成6年3月に新しい分館が完成した。

増築部分は3階建約630㎡で、農学部分館の面積は合わせて1,211㎡となっている。またこの工事により、リフト、窓枠、床、天井、外壁等々既存部分の施設・設備が一新され、新分館として生まれ変わることができた。

工事期間中は事務室や大量の資料の移転によって分館の業務が大幅に縮小され、農学部の研究者や学生諸君を始め多くの方々にご迷惑をおかけしたが、竣工後は移転作業を急ぎ、平成6年4月21日から開館することができた。この場をお借りして関係者各位に心から御礼を申し上げたい。

増築の完成に合わせて、平成5年度補正予算でBDS(図書無断持ち出し防止装置)を設置できたことも、併せてご報告しておきたい。今後は、いわゆる「建新」経費の配分を待って、主要備品の購入を急ぎ、体裁を整えたい。新装なった農学部分館の模様については、今号で別途紹介してある。(P.6～7参照)

以上のように、図書館の施設・設備の整備計画については、一朝一夕に実現するものではなく、先人の永年の努力を基礎にして、多くの方々の協力のもとに実現するものである。

図書館が真の意味で、学内の研究・教育活動を支えるためには、その基盤となる施設・設備が万全なものでなければならないと考えている。以上のこともあって、毎年実施している館内職員研修を兼ねた学術講演会の今年のテーマは、「図書館建築の思想」を予定し、図書館情報大学の植松貞夫教授にご講演いただくことにしている。

次号以下では、

- 図書館資料の整備と予算制度の確立、
- 図書館サービスの改善、
- 図書館職員と研修、
- 管理運営の各事項について記す予定である。

(続く)

(あべ まさき 情報管理課長)

図書館へ行こう

中野 久

私は愛媛大学の図書館を立派だと感じている。大学の正門の前で、最も目立つ場所に位置していて、外見も中味も図書館としての威厳と風格を十分に備えているからだ。

昨夏、講義の課題を提出するためにどうしても本を読まなくてはならなくなった。出版されたのは昔の事で、街の書店では見当たりそうになかったので図書館を利用することにした。長い間本を読んでおらず、本を探すことも久しぶりだったので少し手間がかかったが目当ての本を探し出すことが出来たのでその日から一週間程の間図書館へ通いつめた。

毎日図書館を利用していると様々な発見もある。出入口のゲートのことや休館日について私は気付いたことがあった。

出入口のゲートは図書の無断持ち出しを防ぐための装置だと誰でも気づくが、時に誤動作を起こすことを私は知る機会を持つことになった。私自身があの装置に捕まってしまう無実の罪を着せられたのだ。また、図書館の休館日についてだが、課題提出のために通いつめた頃よりも図書館の利用回数は少なくなったが、夏休み中に図書館へ立ち寄った時は必ず開いていたのである。学生の為に休館日を少なくするよう務めて下さる職員さんは頼もしい存在だ。一方で、図書館を利用する学生も相当いるみたいで夕方に少し立ち寄った時でも利用者で賑わっているのには驚いてしまう。

10月27日からは読書週間とされているが、図書館を利用する絶好のチャンスだろう。学生にとっての読書週間とは日頃の活字離れをした生活から脱けて読書のある生活に立ち返る契機だと思う。ちょうど私は自分の読書量の不足を実感して焦っていたので、自己流に読書週間の意義を創り出して、読書ある生活を求めて図書館を利用することにした。

その結果、私は週に一度、或いは2週間に

一度は図書館を利用して読書に励むようにしている。図書館の中をフラフラと歩き回ると本当に多くの本があって感心してしまう。本の題名を読むだけでも自分が賢くなるような気分さえなるが、興味本位で図書を取り出してみると、以前に読んだ人の書き込みが残っている場合がある。そんな本に出くわすうちに、愛媛大学のエリート集団の活動の跡を発見したように思えてきて、そんな人達に自分も続こう、とか負けられないぞといった意気込みが湧いてきて、自ずと講義にも熱心に耳を傾けるようになるのだ。

今春より図書館前の中庭が改装されて、空きコマや休み時間に図書館の近くまで行く機会が増えた。折角だから図書館の中まで入ろうという気になってしまい最近では図書館の中で図書を物色する機会までも増えてしまった。図書館の中へ入るだけで私の生活に変化がおこるわけではないが、数多くの知識を身につけるには読書は簡単かつ有効な手段だと思う。図書館の中には知識の素がたくさん並んでいて、4年間毎日読んでも終わりは無いと思う。1冊でも多くの本を読み少しずつ知識を蓄えて大学生として恥じない素養が身につくよう図書館をこれからも積極的に利用してゆきたい。

(工学部機械工学科2回生 なかの ひさし)

学外者用パンフレット作成

本学図書館は学外者にも公開していますが、この度、学外者の図書館利用に関するパンフレットを作成しました。

各館の貸出・返却カウンターに置いてあります。

農学部分館が新しくなりました

増築工事のため長い間皆さんにご迷惑をおかけしていましたが、この度新しくなった農学部分館を利用して頂けるようになりました。

どうぞご利用下さい。

農学部分館の中を入口から順にご案内しましょう。

入口を入ると掲示板があります。館内の案内図や、利用者へのお知らせなどを掲示しています。図書館に来られたときには、見ておいて下さい。

右手にはBDS装置が設置してありますが、現在はテスト稼動中ですので、靴、袋類は左手のロッカーへ入れて下さい。

ロッカーの奥には当日の新聞を置いています。ソファと新聞閲覧台をご利用下さい。BDS装置の向こうに見えるのがカウンターです。

カウンターでは貸出・返却・予約・文献複写・学外への相互利用の申込等を受付けています。また、それ以外の事でも気軽にお尋ね下さい。もしカウンターに職員がいないときは、事務室に声をかけて下さい。

カウンターの左手、階段室に過去一ヶ月程度の新聞を置いています。それ以前の新聞は、2階の特別資料室にあります。

カウンターを右手にみて奥へ進むと、右手に情報検索のコーナーがあります。

学内の図書・雑誌の所蔵検索(OPAC)と、current contents, 各種のCD-ROMが検索できます。

さらに奥は新着雑誌と、参考図書類です。

雑誌コーナーは左手から娯楽雑誌, 和雑誌, 洋雑誌です。和・洋共左から右へアルファベット順に並べています。最新号を表に出し、最近のバックナンバーはその奥へ入れていますのでご利用下さい。

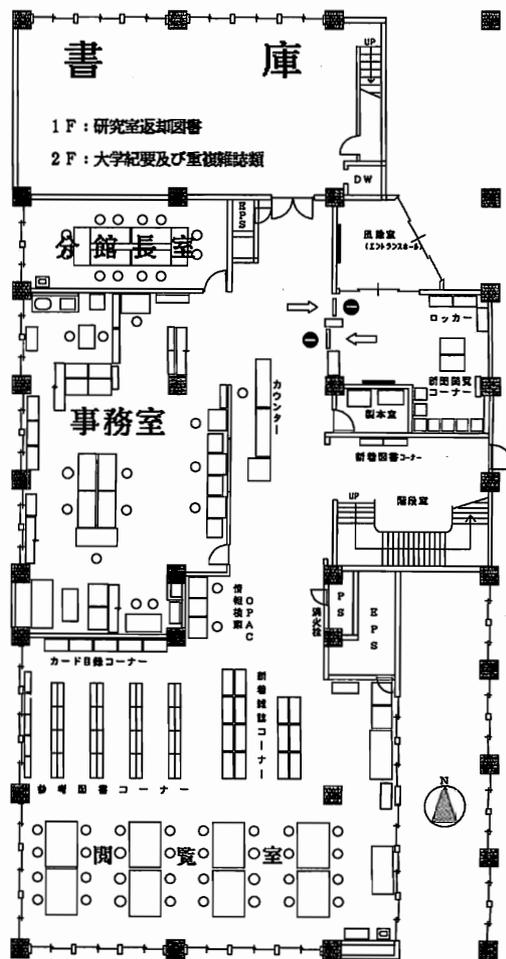
参考図書は左から右へ、NDC(日本十進分類法)の分類番号順に排列しています。一般の参考図書, 年鑑・統計類, 白書類, 洋書, 大

型本(地図等), 要覧・名簿類の順になっています。博士論文, 農学部の紀要, 新聞の縮刷版等もこのコーナーにあります。

一番奥の, 南側のスペースが閲覧コーナーになっています。

参考図書の北側の壁ぎわにカード目録があります。1988年以前の, OPACでは検索できない図書についてはこちらをご覧ください。

和書と洋書に分かれ, それぞれ書名から, 洋書は著者名からも探せます。主題から探す分類目録と和書の著者名目録は, 階段室の壁ぎわにあります。



附属図書館農学部分館 1階平面図

階段を上って2階へ行ってみましょう。

階段から見て右手の奥が書庫への入口、左手の奥が一般の図書のコーナーですが、まず、正面にあるのが、国や各県の機関・研究所から発行されている報告書類です。手前のブロックが県立機関で県名のアルファベット順、その奥が国立機関で所属の省庁別、共に左から右へ並べてあります。民間の企業・団体・研究所等の報告書類もこちらです。

一般の図書も参考図書と同様、NDCの分類番号順に排列しています。

図書の向かい側、東側の窓ぎわは、海外の報告書類のコーナーです。大学・各種機関・FAO等の資料で、FAO以外は国名のアルファベット順になっています。

書庫入口の手前、西側にあるのが特別資料室(新聞保管室)です。現在は各新聞のバックナンバーを置いています。

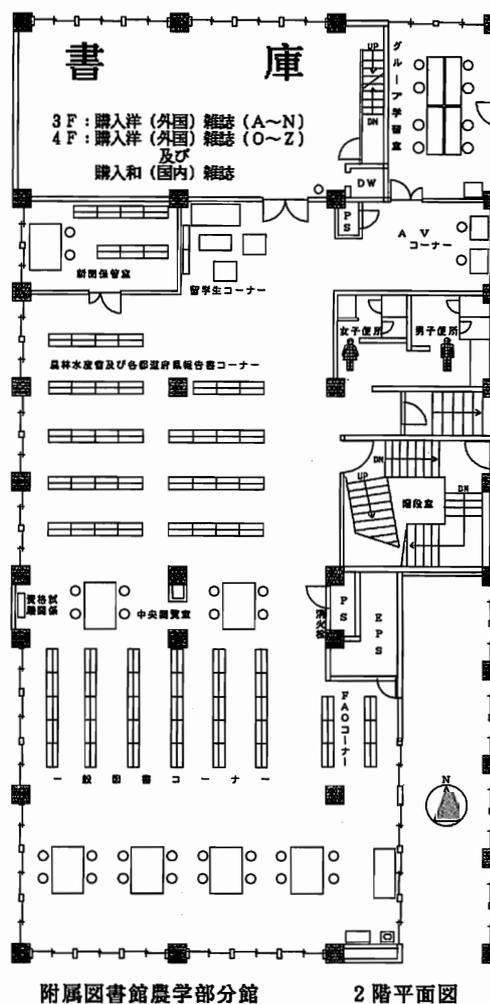
書庫には製本雑誌のバックナンバーを排架しています。1～4層に分かれ、2階から入ると第3層になります。

3層には洋雑誌のA～Oを奥(西側)からアルファベット順に並べています。

4層は洋雑誌のP～Zを手前(階段に近いほう)から奥へ、和雑誌を奥から手前へ、やはりアルファベット順に並べています。

2層には大学の紀要類、1層には利用頻度の低い、古い図書などを排架しています。

以上、簡単にご紹介しました。より利用しやすいよう、改善すべき所があれば、変えていきたいと思えます。ご意見、ご要望をお寄せ下さい。



★ここが新しくなりました★

○入口が1階になり、2階建てになりました。

階段の向こう側の、広い自動ドアが図書館の入口です。

○閲覧室が一層広くなりました。

壁、床、天井が白で統一され、大変明るくなりました。閲覧用の机、椅子なども新しく増やす予定です。

○今まで収納スペースがなかったためあちこちに分散していた学術雑誌がタイトル毎にまとまりました。

○夏休み明けにはBDSが本稼働の予定です。

本館と同じように、鞆を持ったまま入館出来るようになります。

○図書館内の2階にW. C. が出来ました。

平成5年度附属図書館統計

蔵書冊数

(平成6年3月31日現在)

区分	和漢書	洋書	計
本館	562,306 ^冊	225,664 ^冊	787,970 ^冊
医分館	36,087	43,593	79,680
農分館	79,345	19,826	99,171
計	677,738	289,083	966,821

貸出冊数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	2,582 ^冊	50,897 ^冊	479 ^冊	53,958 ^冊
医分館	7,766	7,764	275	15,805
農分館	1,150	8,139	138	9,427
計	11,498	66,800	892	79,190

増加冊数

区分	和漢書	洋書	計
本館	14,027 ^冊	7,533 ^冊	21,560 ^冊
医分館	819	1,647	2,466
農分館	2,290	661	2,951
計	17,136	9,841	26,977

貸出人数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	1,263 ^人	26,110 ^人	236 ^人	27,609 ^人
医分館	6,433	4,154	158	10,745
農分館	458	4,448	62	4,968
計	8,154	34,712	456	43,322

所蔵雑誌種類数

(平成6年3月31日現在)

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	6,201 ^種	2,977 ^種	9,178 ^種
医分館	1,088	945	2,033
農分館	1,923	745	2,668
計	9,212	4,667	13,879

学外文献複写受付件数

区分	大学図書館	その他	計
本館	2,889 ^件	102 ^件	2,991 ^件
医分館	3,090	70	3,160
農分館	590	17	607
計	6,569	189	6,758

受入雑誌種類数

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	3,482 ^種	1,711 ^種	5,193 ^種
医分館	669	491	1,160
農分館	807	303	1,110
計	4,958	2,505	7,463

学外文献複写依頼件数

区分	大学図書館	その他	計
本館	3,400 ^件	195 ^件	3,595 ^件
医分館	3,243	15	3,258
農分館	1,152	37	1,189
計	7,795	247	8,042

係の名称が変わりました

平成6年4月1日付けで、図書館サービス機能の強化・高度化に向けて係の名称を変更しましたので、新しい係名と主な仕事の概要を併せてお知らせします。

【本館】

○総務係 [変更無し]

図書館委員会その他会議・行事
各種統計調査報告
庶務及び会計業務
図書館施設設備の維持管理

○図書係…→図書情報係

図書資料の契約、発注、受入、整理
図書情報のデータベース作成業務

○雑誌係…→雑誌情報係

学術雑誌の契約、発注、受入、整理
雑誌情報のデータベース作成業務

○システム管理係 [変更無し]

電算機の管理運用及びシステム開発
図書館資料のデータベースの維持管理

○閲覧係…→資料サービス係

図書館資料の閲覧、貸出、返却
蔵書の維持管理
利用者用目録の維持管理

○参考調査係…→学術情報係

図書館資料の情報提供、文献の相互貸借
情報検索サービス、文献複写
調査統計報告等の業務

【医学部分館】

○資料係…→資料情報係

分館図書・情報委員会その他会議
図書館資料の収集及び購入計画
調査統計報告等
図書館資料のデータベース作成業務
分館施設設備の維持管理

○運用係…→情報サービス係

図書館資料の閲覧、貸出、返却
利用者用目録の維持管理
蔵書の維持管理、文献の相互貸借
情報検索サービス、文献複写
調査統計等の業務

【農学部分館】

○資料係…→情報サービス係

図書館資料の閲覧、貸出、返却
利用者用目録の維持管理、文献の相互貸借
情報検索サービス、文献複写、調査統計
分館運営委員会その他会議
図書館資料の収集及び購入計画
図書館資料のデータベース作成業務
分館施設設備の維持管理

自己紹介

高崎 義冲

(情報サービス課長)

本年4月から情報サービス課を担当することになりました。前任地は佐賀医科大学です。図書館関係の業務を担当するのはこれが初めてですが、頑張りますのでよろしくお願いします。

ところで、カエサルの「ガリア戦記」は、「ガリアは全部で三つに分かれ、…」という出だしで始まります。

愛媛大学の附属図書館も、本館と医学部・農学部両分館の三つに分かれ、「どれも互いに言葉と制度と法律がちがう。」と続く前書をそのまま引用できるほどに業務内容も異なっています。カエサルをまねて地理的な条件から見ると、農学部分館を隔てるのが石手川、医学部分館を隔てるのは重信川というところでしょうか。

もう十数年も前に読んだ本を、まったく関係のないようなことで思い出すこともあるようで、つくづく本は読んでおくものだと思う今日この頃です。

自己紹介

松下富美子

(医分館情報サービス係)

はじめまして、このたびの異動で、高知大学より転入しました。

出身は愛媛県大洲市で、高知女子大学を卒業後、高知大学図書館に2年間勤務していました。前任地でも、同様にILLの仕事をしていましたので、今回、情報サービス係に配属と知った当初は、いくぶん安心でした。しかし、実際は「ところ変われば品変わる」で

戸惑うことばかりの毎日です。

よく、小柄なため弱々しく思われがちですが、知力より体力が勝る人間です。どのような激務でも、軽いフットワークを信条に頑張るつもりでおります。すこし、そそっかしいきらいもあり、ご迷惑をお掛けすることと申します。その折は、びしびしとご指導下さい。

赴任したばかりですが、皆さんが和気あいあいと仕事をされているお姿を拝見し、私もそうした中で働かせていただくことをうれしく思っています。どうぞよろしくお願い致します。

図書館委員会

○平成5年度第3回附属図書館委員会

日時 平成6年3月15日(火)10:30~11:30

場所 附属図書館3階会議室

報告事項

- (1) 医学部分館の増築計画(案)について
- (2) 農学部分館の開館準備について
- (3) その他

協議事項

- (1) 大型コレクションの選定について
- (2) その他

○平成6年度第1回附属図書館委員会

日時 平成6年5月25日(水)16:00~17:00

場所 附属図書館3階会議室

報告事項

- (1) 農学部分館の増改築完成と開館等について
- (2) 医学部分館における24時間開館の検討状況等について
- (3) 平成5年度学生用図書を選定状況について
- (4) 第42回中国四国地区大学図書館協議会総会等について
- (5) その他

協議事項

- (1) 平成7年度概算要求事項について
- (2) 学術審議会学術情報部会の報告について
- (3) その他

図書館委員会委員

(平成6.4.1現在)

附属図書館長	高島庸一郎	(7.12.15)
医学部分館長	内海爽	(7.12.15)
農学部分館長	久守藤男	(6.10.31)
法文学部	岩間康夫	(7.3.31)
	小林漢二	(8.3.31)
教育学部	柳田征司	(7.3.31)
	加藤國安	(8.3.31)
理学部	野田善郎	(7.3.31)
	入舩徹男	(8.3.31)
医学部	三谷章	(7.3.31)
工学部	青山善行	(7.3.31)
	花山洋一	(8.3.31)
農学部	玉井洋一	(8.3.31)
教養部	河合眞澄	(7.3.31)
	長谷部信行	(8.3.31)
事務局長	小原孜郎	()内は任期

留学生用新聞雑誌を備えました

この度、留学生用の新聞、週刊誌を購入することにしました。

学生部を通じて留学生の方々の希望をとり以下の資料を備え付けることにしたものです。

まだ未着のものもありますが、新聞は新聞コーナーの横に、週刊誌は2階ブラウジングコーナーにありますので、ご利用下さい。

新聞

人民日報 Berita Harian
International Herald Tribune
Kompas

週刊誌

北京週報 Asiaweek
Dewan Masyarakat India Today
Tempo Veja

『松山高等学校』同窓会会員の著書の収集

愛媛大学の母体の一つである「松山高等学校」(大正8年～昭和24年)創立75周年に併せて、同窓会会員の著書を収集し、本学図書館で整備したいとの考えから、去る4月9日～10日に開催された、同窓会において、その趣旨にそった寄贈依頼書を配布したところ、下記の著書をご寄贈いただきました。

なお、これらの図書は現在図書館で所蔵している、松山高等学校同窓会関係の資料とともに「松高文庫」として運用する予定です。

(5月中旬現在一受付順 敬称略)

◎三崎敬之(19回文科甲類)

合衆国の誕生

マサチューセッツ湾植民地公民の研究

◎藤本勝也(29回理科1組)

人間社会論

人間都市をめざして

あすの神戸のために

人間性社会

◎市原薫(24回理科1類)

路面のすべり

◎仲田幸文(30回理科3類)

脈管壁の栄養血管

◎奈良本辰也(14回文科甲類)

奈良本辰也撰集1～6, 別巻

戦国武将の帝王学

暗殺の季節

二宮尊徳

武士道の系譜

武田信玄はジンギスカンだった

歴史から今なにを学ぶか

小説葉隠

石

日暮硯

武士道

戦闘者の姿勢

部落の歴史と解放運動

吉田松陰

次の時代をつくる志の研究

京都百話

忘れられた殉教者

もう一つの維新

京都・奈良—古寺巡礼

幕末—「狂」を生きる

歴史対談日本と中国

不惜身命

幕末から維新へ

京都故事物語 上

歴史に学ぶ

町人の実力

吉田松陰：この劇的な生涯

志とは何か

参謀の器量学

歴史を学ぶ人のために

日本地酒紀行

乱世に生き残る条件

私の幕末

維新的人間像

宮本武蔵五輪書入門

『葉隠』にみる処世決断

武蔵と五輪書

骨董入門

なるほど・ザ・幕末維新史

西郷隆盛語録

落陽燃ゆ

統道真伝 上～下

変革者の思想

葉隠

高杉晋作

謎の日本海賊

日本史の参謀たち

歴史家への道

ビジネスマンの葉隠入門

(このことの詳細については図書館松田
内線3223にお問い合わせ下さい)

図書館日誌(会議, 研修)

- 2月2日 平成5年度第5回医学部分館図書・情報委員会
3月15日 平成5年度附属図書館委員会図書選定小委員会
" 平成5年度第3回附属図書館委員会
4月8日 平成6年度第1回医学部分館図書・情報委員会
4月19日 第42回中国四国地区大学図書館協議会(広島大学)
~21日 第21回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会(広島大学)
4月26日 平成6年度第1回農学部分館運営委員会
5月25日 平成6年度第1回附属図書館委員会
5月26日 日本医学図書館協議会総会(北里大学)
~27日
5月31日 国立大学附属図書館事務部課長会議(東京医科歯科大学)

両分館のブック・ディテクション・システムの設置について

医学部・農学部の両分館に図書館近代化の一環として、ブック・ディテクションシステム(BOOK DETECTION SYSTEM)を設置しました。

このシステムは無断持出し防止装置と呼ばれ本館では既に平成3年から導入しております。

両分館においても、カバンや本の持込が自由になって入館時の煩わしさがなくなり、より図書館の利用が容易になります。